

令和7年度下半期 教育活動 アンケート集約(保護者向け)

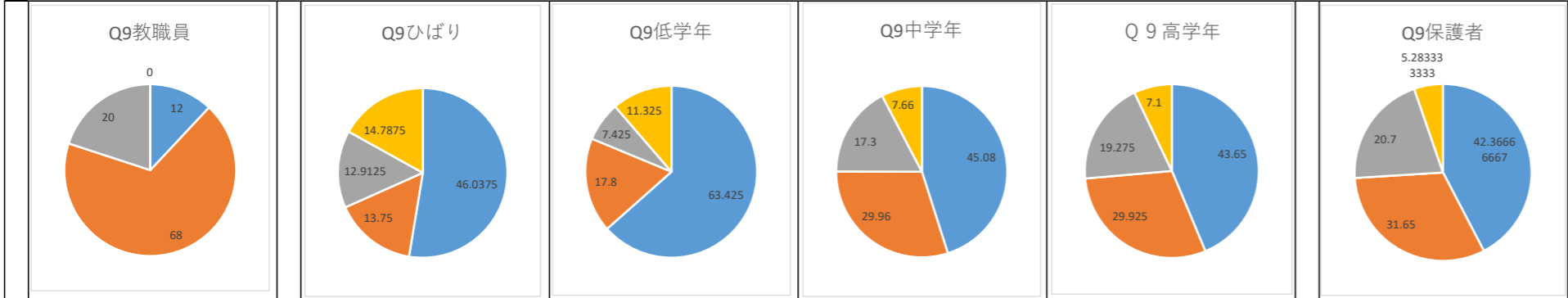
※ 質問文は保護者のものに統一しています。

青：そう思う 橙：少しそう思う 灰：あまり思わない 黄：思わない

教職員向け	子どもひばり	子ども低学年	子ども中学年	子ども高学年	保護者向け	実態と今後の対策
1 ①お子様は、学校に行くのを楽しみにしています。						<p>◎低学年の数値がマイナス傾向に変化しました。これは、実際に学校生活に慣れてきたことと捉えられます。ほぼ1年の学校生活を、保育園や幼稚園と比べ、その違いや差を少しずつ実感し、子どもに理解されていったためと推察できます。これは決して悪いことではなく、学齢が進むのとともに、徐々に大人になっていく上でも必要な障壁です。ただ、低・中学年にマイナス傾向の数値が見られるので、不安などを抱えている児童へのケアを後期下期に充実させていくことが次年度の進級に繋げる鍵となると考えます。一人一人への声かけや心の動きに寄り添い、学年をまたいで愛情を持って接していきたいと考えております。</p>
<p>Q1教職員</p>	<p>Q1ひばり</p>	<p>Q1低学年</p>	<p>Q1中学年</p>	<p>Q1高学年</p>	<p>Q1保護者</p>	
2 ②お子様は、授業がわかりやすく楽しいと思っています。						<p>◎学習指導要領はその時代ごとに求められる力の育成を目指して国が定め、これらに則って学校では子どもたちに指導をしています。従って、保護者が小学生だった頃とは学習事項は大きく変わらないにしても、考えるに至るまでのプロセスや取り組み方は大きく変化しています。現在学校で根拠としている学習指導要領は平成29年に示されたものに沿って展開しており、子どもにとって深い学びとなるように本校教員は色々な手立てをとって指導しています。もちろん時代が要請するICT機器の活用も積極的に図りながら指導展開に改善を加えています。次期示される指導要領も見据えながら、今後も、学習指導や生徒指導に力を入れ、よりよい方向へ改善を図っていきたくと考えております。</p>
<p>Q2教職員</p>	<p>Q2ひばり</p>	<p>Q2低学年</p>	<p>Q2中学年</p>	<p>Q2高学年</p>	<p>Q2保護者</p>	
3 ③おだちと喧嘩やめめ事があっても、お子様は周りの人と全般に仲良く生活できています。						<p>◎はじめから大人がイメージする考え方や教えを子どもは認識することはできません。色々な考え方に触れ、多様な価値観と接しながら徐々に大人の思考ができるように成長します。私たち大人も色々な経験や失敗を積み重ねることによって今のご自身が完成しているはずで、小学校段階ではまさにその渦中にあります。そう考えた場合、今回の結果から各学齢期での課題は異なるにせよ、人が仲良く過ごすことの意義を考えながら子どもたちは学校生活を送っていることが伺えます。自分との違いや相手を尊重する態度、他を思いやる心情などは、誰かに言われて育つものではなく、人と関わっていく中で学び取っていくものです。前期と大差はありませんでしたが、低・中学年のマイナスな回答が減少していることから、子どもたちは学年・学級という環境の中で周りの人との関わり方を通して個々に葛藤して成長している証と捉えられます。</p>
<p>Q3教職員</p>	<p>Q3ひばり</p>	<p>Q3低学年</p>	<p>Q3中学年</p>	<p>Q3高学年</p>	<p>Q3保護者</p>	
4 ④お子様は、「笑顔の学校 鶴野小学校」に記載されている学習に関わる決まりごとを守って行動しています。						<p>◎学校で行う学習は全て学習指導要領に定められています。現在特に求められる力は、知識や技能だけではなく、知っている、できるのみならず、「どうすればできるか」「どのように考えるとよいか」といった考え方を、仲間と交流することで深め、広げていく力も求められています。そのためには、1時間1時間の授業を意図的・計画的に展開していくことが求められ、先生方はその授業技術を磨こうと積極的に試行錯誤を繰り返して取り組んでいます。教員の数値が低いように見えますが、各学級で行われている日常の授業の様子から本校教員は日々改善に取り組んでいると評価しますので、謙虚さの表れと推察します。今後も、時代が求める力を培うことのできる授業へのアップデートを本校では進めていきたいと考えております。</p>
<p>Q4教職員</p>	<p>Q4ひばり</p>	<p>Q4低学年</p>	<p>Q4中学年</p>	<p>Q4高学年</p>	<p>Q4保護者</p>	
5 ⑤お子様は、相手の気持ちを考えた行動ができています。						

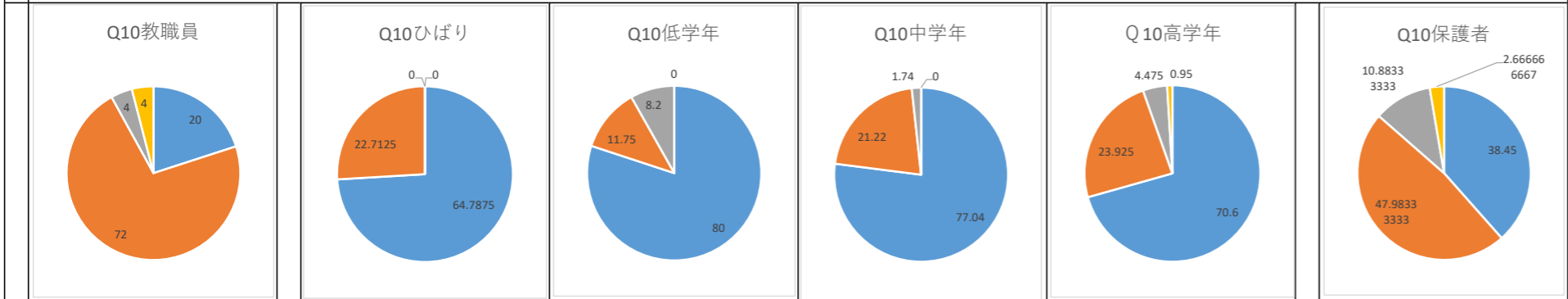
<p>Q5教職員</p>	<p>Q5ひばり</p>	<p>Q5低学年</p>	<p>Q5中学年</p>	<p>Q 5 高学年</p>	<p>Q5保護者</p>	<p>◎今年度、本校では子ども一人一人の気持ち「心地よさ」を感じ、与えられる教育活動の展開に傾注してきました。各学級では、「自分がされたらどう思うか」を念頭に道徳や特別活動の学習の他、休み時間や生徒指導事案を含めた教育活動のあらゆる場面で触れて子どもたちが感じ、考えられるように配慮してきました。ただ、心や体の発達段階の差や価値観の多様化から、全く同じベクトルで捉えることは困難です。しかし、人が人として生きていく上で決してしてはいけないことは一人の大人としてしっかり子どもに指導していく姿勢を貫き通す必要があります。「だめなことはだめ！」と毅然とした指導は今後も継続していきます。これは、学校や保護者で取り組むだけでなく、地域全体でも同様に取り組んでいくべきこととして考えます。コミスク運営協議会でも発信していきたいと考えております。</p>
<p>6 ⑥お子様は、学級の係活動や委員会活動、クラブ活動に積極的に取り組んでいます。</p>						<p>◎特別活動は、低学年までは学級の中で、高学年からはこれに加えて委員会やクラブ活動などの異学年集団においてこそ、発達段階に応じた学びがそれぞれに期待できる学習です。色々な場面で子どもたちの発想が活かされたり、アイデアが反映できることから自己有用感や自己効力感など、自分に自信をつけていくことが大いに期待できます。このような姿を目指し、今年度は、前年度の活動に習うのみならず、必ず昨年度との違いを一つは設ける+αに取り組んで来ました。時間的に確保が難しいこともありますが、自らの学びを広げ、深めていくためにも受け身から脱却し、まずは+1からはじめ、自分の内から発信できる力を伸ばしていく取組を今後も継続していきたいと考えております。</p>
<p>7 ⑦お子様は、「生活科」(1・2年生)「総合的な学習の時間」(3年生以上)を楽しみながら取り組んでいます。</p>						<p>◎生活科や総合的な学習の時間には、保護者の方々が小学校の時にはなかった授業で、「正解がない問い」に挑むという特徴があります。学力(認知能力)だけではなく、粘り強さ、自己肯定感、協働できる力などの非認知能力を伸ばすことができます。特に探究的な学習は、自分自身の関心や疑問を出発点として学習を進める形態をとるので、学びの過程では常に学習者が主体となり、教師は子どもの主体性を活かし、思いや考えを引き出したり、学びの環境を整えたりする役割を担います。これから迎えるであろう未来社会は、これまで以上に多様な課題が山積し、価値観が多様化する時代です。そんな社会に対応できる力を身に付ける小学校段階としての取組がこれらの学習にあたりとお考えください。知識を一方的に教わるのではなく、自分で考える力を育む学び方を通して、これからの社会の変化に対応した主体的に学び続ける力をつけるためには、探究的な学びの姿勢はととても大切なのです。</p>
<p>8 ⑧お子様は、英語に興味を持っている様子がうかがえます。</p>						<p>◎小学校における外国語教育(本校は英語)のねらいは、英語での会話場面を中心に、聞く、読む、話す、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解・表現、伝え合うことができる力を培うことを目指しています。本校の子どもたちの結果から言うと、年齢が進むにつれ興味・関心が高まってきていることは数値からも伺えます。幸いなことに、本校では英語専門の先生やALTの先生による指導が各学年で行われています。日本語である国語をまずはしっかり学びつつ、これからの社会で求められる英語を使ったコミュニケーション力も併行して身に付けていけるよう、教室環境も考慮しながら学びを進めていきたいと考えております。</p>
<p>9 ⑨お子様は、外で元気に遊んで体を動かし、健康でたくましい体づくりをしています。</p>						





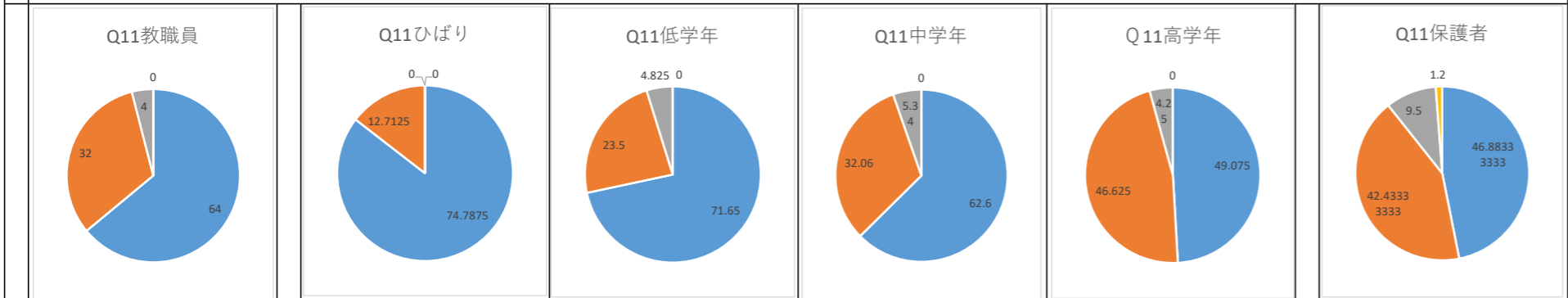
◎一部の学年で体育の準備運動で縄跳びを導入するなど、各学年で工夫を凝らしてきました。校内では体力づくりのコーナーも設け、休み時間に自由に入出できるスペースを設けたり、体力テストの記録保持者を掲示したりして関心・意欲づけを図って工夫をしています。休み時間には、元気にグラウンドへ向かって走り出す子どもたちも多くいますが、全員ではありません。放課後に公園で遊ぶ子どもたちも見かけますが、そう多くいる感じを受けません。ただ本校の場合、徒歩で登下校をしている児童が多い印象を受けます。特別な場合を除き、毎日歩いて登下校する行為は、毎日無意識のうちに体力づくりにつながっているのではないのでしょうか。学校でできることは今後も継続できるよう工夫を凝らしていきたいと考えております。

10 ◎学校は、お子様の学校生活のことや、特別支援教育、通級指導に関わる相談をしやすいです。



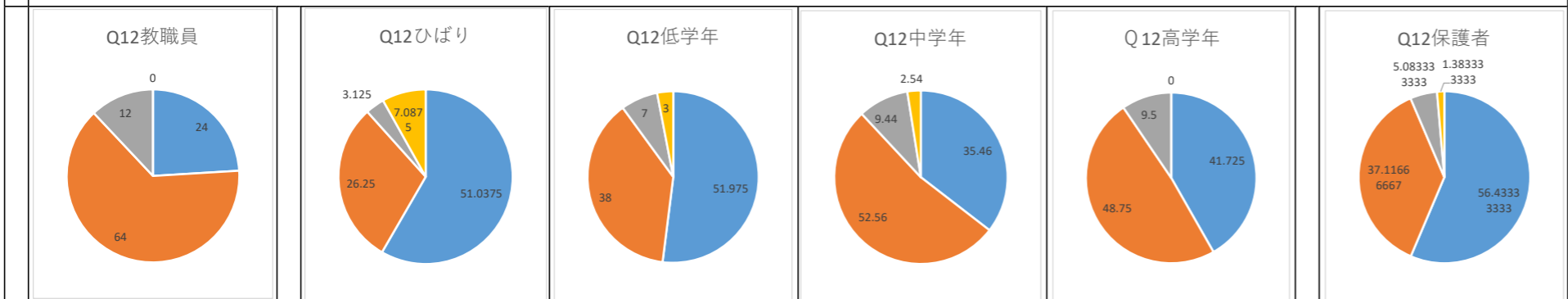
◎これからの学校教育、とりわけ特別支援教育は、一人一人が皆違うことを前提に学びを展開していくことに傾注することが求められています。この考え方は、決して特別支援教育だけに求められるのではなく、通常学級においても同じことが言えます。本校ではこの考え方を前提に学級経営が進められるよう教員研修を重ねています。また、このような展開のために保護者と教員の間での情報共有は欠かせないものになると考えます。日常的な情報共有をはじめ、保護者との直接的なコミュニケーションを大切にしていきたいと考えております。また、特別支援教育においては、誰か特定の教員が頑張るものではなく、学校全体の仕組みとして機能させることに傾注することが大切だと考えます。一人の百歩ではなく、みんなで一歩一歩確実に進んでいける教職員集団を今後も目指し、子どもたちの成長を支えていきたいと考えております。

11 ◎学校は、いじめは決してしてはいけないということをしっかりと指導しています。



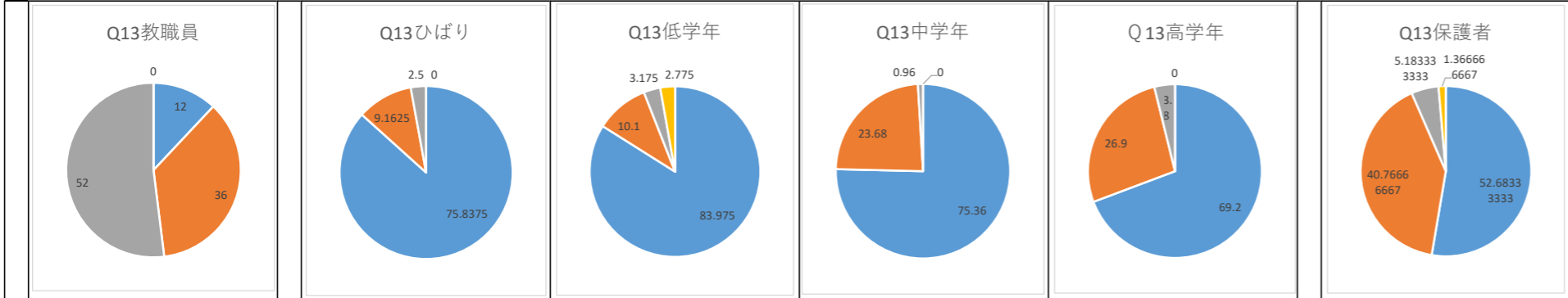
◎いじめについて学校では、「しない・させない・許さない」を基本姿勢として日々の教育活動の中で指導を重ねています。また、いじめを早期に発見し未然に防ぐためには、子どもたちの小さな変化を見逃さないことが重要です。教職員一人一人が日頃から丁寧に様子を観察し、気になるサインに気づけるよう意識を高めています。さらに、子どもが「困ったときは相談してもいい」と思える安心できる環境づくりにも力を入れています。家庭との連携も欠かせず、子どもの様子を共有しながら、学校と保護者が同じ方向を向いて取り組むことが大切だと考えています。また、毎年「学校いじめ防止基本方針」を見直し、万が一いじめが発生した際には組織的に対応できる体制を整え、その内容を保護者や子どもたちにも伝えていきます。ご家庭でも気になる変化があれば、どうぞ遠慮なく学校へお知らせください。子どもたちが安心して過ごせる環境を守るため、これからも協力して取り組んでいきます。

12 ◎お子様と学校での出来事について話し、次の行動や今後のこと(この先のこと)について会話する機会があります。



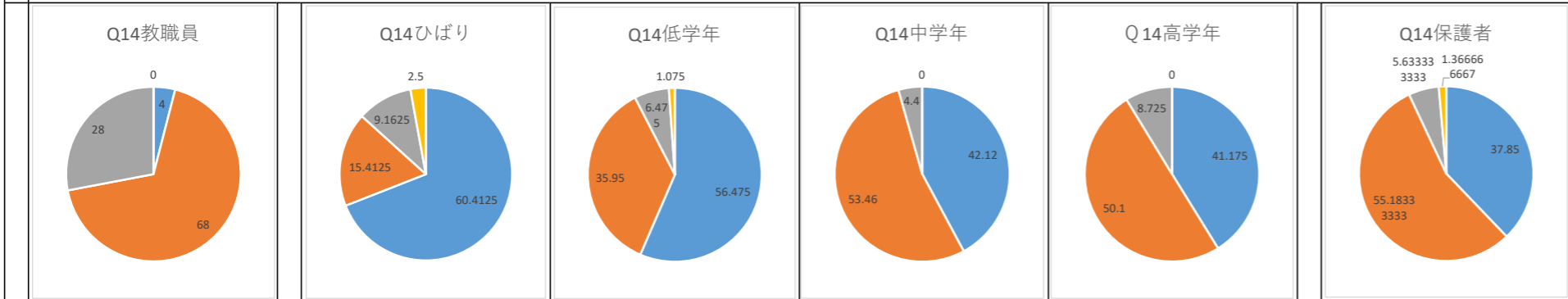
◎キャリアノートなどを活用した継続的なふりかえりの活動を通して、子どもが自分のよさや可能性に気づけるようにすることが大切です。中でも発達段階に応じてふりかえりの方法や問いかけを工夫することは、子どもたちが自分の経験を適切に意味づけ、自己理解を深めることにつながります。低学年では、できたことや楽しかったことを具体的に振り返り、自信の芽を育てることを重視する。中学年では、行動と結果を結びつけて考える視点を育て、友達からの肯定的な言葉を取り入れることで多面的な自己理解を促す。高学年や中学生では、強みや課題を整理し、目標設定とふりかえりのサイクルを体験させることで、少しずつ俯瞰して取り組めるようになります。このような段階的な指導の工夫により、子どもが自分の成長を実感し、主体的に将来を考える力の基礎を獲得できるよう学校では傾注していきたいと考えております。

13 ◎学校は、テレビやパソコンなどの機器や教材を積極的に活用して授業を進めています。



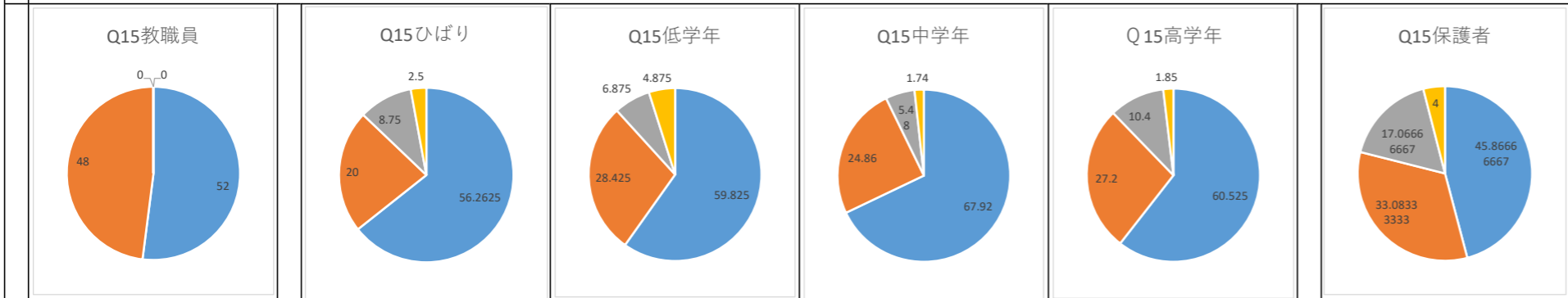
◎ICT機器の活用について、これまで十分に取組みなかったと感じている先生方もいます。授業で使う機会が限られていたり、機器の不調が続いたりしたことで、思うように活用できなかったという声もありました。また、使い方を子どもたちと一緒に確認しながら進める場面も時としてありながらも、無理なく学びを進めようと努力できました。通級指導では、子どもたちの理解を深めるために具体物を使うことが多く、ICTを使う場面が自然と少なくなることもあります。今後は、記録や視覚的な支援など、子どもたちの学びに役立つ場面を見つめながら、子どもの実態に応じて少しずつ活用の幅を広げていく予定です。いつでも、どこでも、何でもではなく、子どもたちにとってよりよい学びにつなげられるか否かといった視点から、無理なくICTを取り入れて改善を図っていきたくと考えております。

14 ◎お子様は、「笑顔の学校 鶴野小学校」に記載されている生活に関わる決まりごとを守って行動しています。



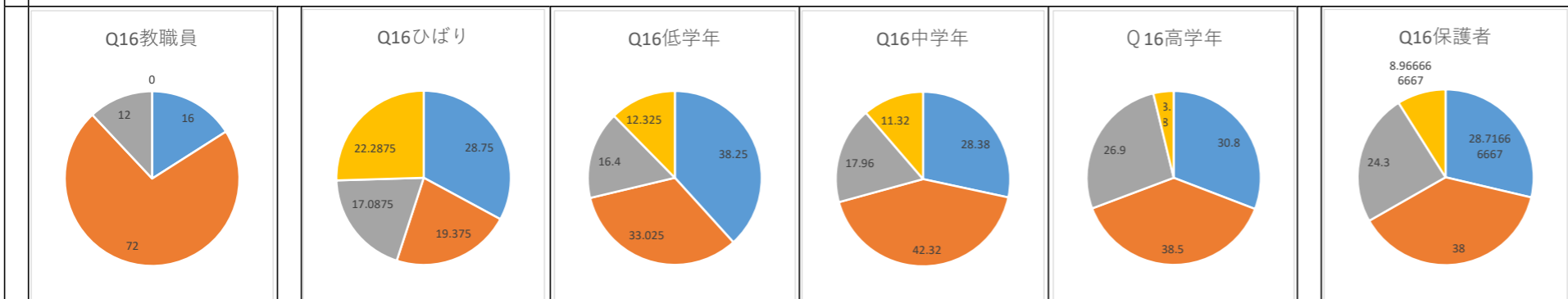
子どもたちは、まだ自分の身を完全に守れる年齢には達していません。心も体も、そして判断力も発達途上にあります。だからこそ、学校という小さな社会の中で、多くのことを経験し、学び、生きる力を身につけていく時期、それが義務教育段階なのです。小学校・中学校と段階を踏み、生活習慣や社会のルールを理解し、実践できるようになることがとても重要なのです。その基盤となるのが「生活の約束を守ること」です。もし「何でもOK」という環境で育ってしまうと、自分をコントロールする力が育ちにくくなり、将来的に困難を抱えるリスクが高まるでしょう。だからこそ、日々の生活習慣を整え、決まりを守る経験を積むことが必要なのです。学校と家庭が同じ方向で取り組むことが、子どもたちの安心につながります。生活習慣を整えることの大切さを、ぜひご理解いただき、家庭でも温かく支えていただければ幸いです。

15 ◎お子様は、提出物の〆切を守ったり、学校の学習に必要なものは持って行かないようにしています。

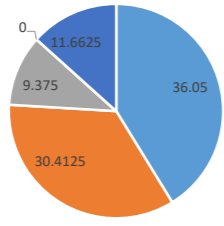
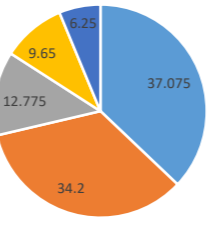
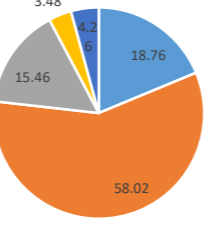
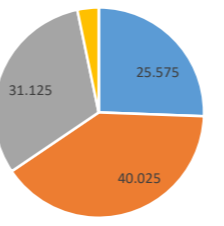


◎本校で「不要なものは学校に持っていかない」とようお願いしているのは、学習環境を守るためです。学校は学習をするところです。ゲーム機やおもちゃなどがあると楽しい方へ気が向いてしまい、授業へ集中しづらくなったり、周囲の注意もそらしてしまいます。また、私物をめぐる「なくなった」「壊れた」「貸した・借りた」などのトラブルが起きやすく、人間関係のもめごとにつながるリスクはかなり高くなります。他に、子どもの安全・安心した学びの環境保持といった視点もあります。危険物や扱い方によって事故につながりかねないものを持ち込まないようにすることで、子どもたちが安心・安全に楽しく過ごせる環境を保つことができます。冒頭にもあるとおり、学校は学ぶ場所であり、必要なものだけを持つてくるといったルールを守ることは、将来の大人の姿に向けて、社会的なマナーや責任を身につける基板となります。

16 ◎お子様は、「笑顔の学校 鶴野小学校」に記載されている学年ごとの勉強時間を守って、宿題や家庭学習に取り組んでいます。



◎本校では、中学校進学時の「中1ギャップ」を軽減するため、小中連携による学習習慣づくりを進めています。9年間の学びは子どもにとって見通しが持ちにくいいため、学年に応じて無理なく取り組める学習時間や生活習慣を段階的に積み重ねることを大切にしています。その一例としてまとめたのが年度初めに配付している「笑顔の学校 鶴野小学校」です。本校では全ての学年学級において、一人一人が成長を実感し、次の学年を意識して学べるよう支援しています。学習習慣は学校だけでは身につけにくく、ご家庭の協力が欠かせません。短時間でも毎日机に向かう習慣づくりや、できたことを認め励ます声かけをお願いいたします。今後も子どもたちが安心して中学校へ進めるよう、教職員一同取り組んでまいります。

後	<p>学習時間 ひばり</p> 	<p>学習時間 低学年</p> 	<p>学習時間 中学年</p> 	<p>学習時間 高学年</p> 	<p>青：30分より少ない 橙：30分から1時間 灰：1時間から2時間 黄：2時間以上 紺：まったくしない</p>	<p>◎高学年では、2時間以上の家庭学習に取り組む児童はわずかに減少したものの、家庭学習を全く行わない児童はいなくなりました。また、1～2時間の家庭学習に取り組む児童が約10%増加しており、全体として家庭学習への意識が高まっている様子が見られます。中学校進学を意識し始める時期であることも、こうした変化につながっていると考えられます。低学年から中学年にかけては、家庭学習の時間にばらつきがあるものの、学年が上がるにつれて家庭学習に取り組む児童が増える傾向が見られました。学校では、家庭学習の目安として、低学年は「学年×30分」、中学年以上は「学年×30分に10分を加えた時間」を最低時間として示しています。取り組む内容にもよりますが、中学校進学に向けて、自ら学習を進めようとする習慣を身につけることが大切な時期です。また、基礎学力をしっかりと固めておくことは、子どもの将来の選択肢を広げるうえでも重要です。</p>
---	---	--	---	---	---	---

●記述でいただいたご意見や思い
 (いただいたご意見等の文面をできるだけ尊重して表記しておりますが、個人の特定につながる恐れのある表現については部分的に加筆、修正、削除させていただきました。)

<学習発表会に関わって>
 ・早めに並んで一番前の席を確保しましたが、子供の顔が全く見えませんでした。背の順に出来ないのなら、せめて段差を顔の分だけ高くするとか他の工夫をして頂きたかったです。来年からは何とかありませんでしょうか？
 ・学習発表会での事です。年子が居ないにも関わらず、前の学年から入って、自分の学年になったら前列に移動するのは、どうなのかなと思います。
 ・学校からのルールを守り、玄関開錠の前から外に並んで、体育館前の待機でも前の方に居たのに、既に三列目まで埋まってるのは明らかにおかしいと思いました。
 ・先日の学習発表会につきまして保護者の座席ですが、入場した際にすでに前の学年の子の親ではない子が前列に座っていました。〇〇部や□□部の親御さんなど、部活で席をキープしている様子が見受けられました。他にも席取りをしている方もいて後から入った人に席を渡していました。このような状態では気持ちよく発表を見ることができません。ある一定のルールを設けて、子どもの手本となるようにしたほうが良いのではないのでしょうか。
 ⇒どの学年でも見え方に工夫を凝らして参りましたが、次年度以降、更に改善を図っていききたいと思います。また、保護者席に関しては、おっしゃるとおり「子どもの手本となるような」意識を保護者の皆様一人一人が持つことが大切だと考えます。

<学校のきまりに関わって>
 ・学校の約束を守っているかどうかと何度も聞かれたけどそれが何の役に立っているかが具体化されていないような気がします。必ずしも約束を守る守らないで評価することが全てではないし、その判断がそんなに大事なのかな？とは思いました。しかも親からみて守ってますか？っていう質問は誰へなのかな？と思います。
 ⇒約束を守ろうとする心の成長は、お子様の自立を考えていく上で大切な視点の一つです。本校としては年度始めに全員へ向けて配付している「笑顔の学校 鶴野小学校」を基本としています。なお、質問が誰へ向けたものなのかについては、保護者に向けた質問です。ご家庭でお子さまの様子をご覧頂く中で約束を守って行動をされていますかといった質問です。十分にお伝えできていなかったという視点で今後改善を図っていききたいと思います。

<学習の準備・タブレットの活用に関わって>
 ・図工や生活に必要な持ち物はもう少し明白に情報がほしい。
 ・タブレットに関しては懇談会などで話すこともありますが、やはり使用頻度があまり高くないのかな？とは感じます。
 ・毎日先生からメッセージが届いても子ども側から返事を送るだけで特に送った感もないし、返事を全員に返したりできないなら尚更。出さなきゃポイント貯まらないからとりあえず毎日出すわ的な感じになっているような。せつかく開く機会があるならタブドリとかもっとタブレットを開きたいと思う課題にするとか工夫が必要かなと思います。
 ・タブレットに先生から届く課題が遅い時があるので、もう少し早めに送ってほしい。また、なぜなぜのような課題は時間の有効活用を為、遠慮願いたい。
 ⇒学習の準備はできるだけ早めにお伝えできるよう改善を図っていきたくと考えております。また、タブレットの活用については、技能的な側面の他、学齢とともに変化していく心の発達にも傾注した使い方を学べるように配慮しながら対応しております。個々の技能も様々であることから、今回いただいた事例も含め、お子様が正しく安全に取り扱えるよう学校でも指導を重ねてまいりますので、ご家庭においても継続した指導をお願い致します。

<不登校>
 ・まさか我が子が不登校になるなんて、どんな家庭の親も想像したこともないと思います。我が家もそうです。学校の話すれば泣いたり口を閉ざすので腫れ物に触るよう。この先も学校に行ける日はないと思ってます。
 ⇒不登校に関しては、すぐに正解を出したり、また、誰かのせいにする問題ではないと考えます。同時に、親が一人で抱え込む問題でもありません。ですから、支援や相談を積極的に利用することは「前に進むための選択」と捉えていただければと思います。また、外部の関係機関と繋げることも選択肢の一つにありますので、まずは担任に相談していただきたいと考えております。

<その他>
 ・いつもありがとうございます。引き続きよろしく申し上げます。
 ・子どもが学校生活に不安を感じていた時に、担任の先生に相談にのっていただいたり、その後も何かと気にかけてくださり大変感謝しております。「～かもしれない」ではなく、直接、本人の訴えた事柄から、相手の話を聞き取り、その後は事実に対しての対応をしていただくことで、解決につながったのではと感じました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
 ・担任の先生には細やかな支援をしていただいていたいて感謝しています。今後ともよろしくお願いいたします。
 ・いろいろご迷惑をかけることがあると思いますが、本人は大人になりつつあり、これからも頑張っていくと申しております。悪いことをしたら厳しくご指導してください。良いことをしたら褒めるようにしてください。
 ・いつも今日も楽しかったと色々な事を話してくれます。時にはトラブルがあったことを話す事がありますが、なんでも話してくれている事を嬉しく思います。嫌な事を聞く母ですが、言いたくない事は、ある程度聞かないようにしたり、話したくなったら話してねなど、時間を空けて聞いたりしてます。他多数
 ⇒励みになります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。